

## 第2回「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーターステップアップ研修

### 【意見交流のまとめ】

テーマ：家庭教育支援が届きにくい家庭とどうつながるか

○肯定的な意見

●悩みや課題

#### 1. 支援対象家庭との繋がる工夫の現状報告

##### 《他部署等との連携》

- 福山市松永管内では最初の赤ちゃん訪問の際に、民生委員も一緒に出向いて、絵本をプレゼントしている。その際に地域の集いなどの情報提供をしていると聞いた。（全市はどうか確認できていない。）
- 福山市においては赤ちゃんが生まれた時に、民生児童委員が絵本を持って家庭を訪ねる「ブックスタート」制度と保健師と養成講座を受けたボランティア（キラキラサポーター）さんが訪問する「こんにちは赤ちゃん訪問事業」があるので、訪問した時に相談先の電話番号や育児サークルを紹介して、困った時に連絡してもらえるように繋げていける。
- 学校の先生と連携していて、気になる家庭を教えてもらっている。
- 保育所とも連携し、悩んでいる家庭があれば、子育て支援系のサークルへ誘ってもらっている。
- 保育所・保育園・幼稚園などで行っている子育て支援の情報は、市の健診などで保健師さんなどが情報提供をされている。
- 府中町ではネウボラができたこともあり、昨年度は幼稚園，保育園，福祉部局，子育て支援センター，児童センター，シルバーママ（社会福祉協議会），社会教育課が集まったの会議があった。良い流れだと思ったが、今年度は開催されていない。
- 三次市では乳児検診などで「親プロ」をやってきた。コロナで一旦中止して、また復活したものの、それが今中断中。なかなか安定しないからやれていない。またオンラインでの実施はあまり手を挙げる人がいない。

##### 《口コミ，その他》

- スーパー等で商品にいたずらをする子がいて、注意をしたことがある。その時に、保護者と言葉を交わした際に、困っていることがあれば育児サークルに来てみたらと、声をかけている。
- 9か月検診の見守りで気になる親子に声をかけることもできたが、コロナの蔓延でイベントがオンラインになり直接会う機会が減った。『家庭教育の提言』マグネットシートの配布や家庭教育支援チーム「くすのき」通信を作成するなど工夫もしているが、個人情報保護の問題もあるので、条例などの整備も必要だと思う。
- 廿日市市が企画しているものについては、新規参加者は、参加者の友達という感じである。

#### 2. その他の現状報告

- 新規開発教材を用いての講座を、子育て広場にて開催予定。事前申込みによる参加者把握，参加人数・講座時間を少なくするなどの工夫をして開催したい。
- 尾道市では土日に開催している。
- （岡山県）「親プロ」をまねて作ったと思われるものを今までは、入学後，また新入生説明会などで実施していた。コロナ禍で訪問ということは全くしてない。スマホの使い方などをPTAに働きかけて、各家庭でルール作りなどお願いしている。集団で見えていただくことができる場合は、

YouTube にして DVD を配っている。

- 例年 10 本以上講座を実施していたが、今年度は市内の学校でもコロナが発生し、消毒に追われているなどの状況から、講座が開催できていない。会議についても、集まることが出来ずオンラインに切り替えているが、「日中の参加は可能だが、夜になると難しい」など、全員参加が難しい。

### 3. 支援対象家庭との繋がり方に関する課題や悩み

#### 《支援が届きにくい家庭を見つける事の難しさ》

- 本当に必要としている人、悩んでいる人を探すのは難しい。
- 引っ越してきたばかりなど、どこに相談したらよいか分からない家庭の場合は、どのようにつながるか。その前に、どのように把握するかが重要。また、未就園児だと家にいるため、外からは見えない。(子どもが少し大きくなれば、保育所や幼稚園等で相談ができ、家庭に課題があれば職員が気づくこともできる)
- 家庭支援の届きにくい家庭は、インターネットでも繋がったり、見つけたりすることは難しいと思う。特に、今コロナ禍で家を出る機会もへり余計見えにくくなっているのでは。

#### 《支援につなげる事の難しさ》

- 家庭教育支援が届きにくい家庭とは、情報をシャットアウトしている家庭であり、行政側は支援が必要と思っても、本人はそう思っていない場合もある。その場合は、こちらから働きかけるのは困難。
  - アポをとっても拒否されることがある。
  - 何度も出向いてやっと繋がれる。
  - 支援の必要性をお母さん自身が気づいていないこともある。
  - 公民館や公共施設からのつながりは、広報誌等で簡単。しかし、町内会へ入っていない人へのつながりをどうしていくか課題。
  - 地域と交流がない方へのつながりが課題。
  - 繋がりを求めない方と、経済的にしんどい、の二点が重なっているケース多い。
  - いろんな地域事情が見えにくくなっているため、どこまで関わっていいのかわからないところがある。家庭のあり方など変わってきている。
  - 若い人もつながりたいという気持ちはもっているが、関り方に迷っている人がいる。
  - 親子の居場所づくりが必要だと思うが、環境が整っていないため、身近に感じれないことや説明できないことが多い。
  - 個人情報を含むことがあるので、ファシリテーターだけでは難しいこともあるのではないかと。
  - 若い人は地域から出ていき、住んでいる近所に小さい子どもがいないため関わる場面がないし、学校から出される情報も回覧板などでの事後のものが多く、学校と家庭は繋がっていても地域との繋がりは薄い感じがする。
- #### 《子育て支援の認知度の低さ》
- 「親プロ」の認知度がまだ低い。
  - 活動を若い子育て世代に直接、伝えられる機会がない。公園などで遊んでいるところに、とび込みで話しかける訳にはいかない。
  - 昨年の9月に娘が出産した。イクちゃんネットがあることも知らないのでは…。どんな行政の取組やサポートがあるのか知らない気がする。コロナもあって、同じ子育て世代の人としか繋がっていない気がする。情報もブログやインスタなど若い人の情報(自分の好みにあったもの)だけに偏っている気がして、心配。

- タブレットの貸し出し、近所の公民館に集まるなどの案や、支援センターからの声かけ活動をしているが、届きにくさは解消されていない。

#### 4. 支援対象家庭と繋がる工夫に関する提案

##### 《他の部署との連携》

- 保健師からの情報提供はどうか。知らない人から言われるより、保健師からの情報提供の方が信用できると思う。(15分の「親プロ」など)
- 各関係部署と連携することが大事。
- 民生委員などと連携して、必要な家庭に声をかけていく必要がある。
- 図書館のブックスタートをきっかけにつながる方法がある。  
しかし、司書から積極的に話しかけることはプライバシーの問題もあり難しい。(子育て関連の本を借りているからといって子育てに悩んでいませんか？など声をかけたりはできない。)自分から相談していただければ、本の紹介に合わせ団体や窓口等も紹介できる。
- 行政とファシリテーターが密に連携を取りながら、子育て支援センター等の若い世代も集まる場所に出向き、関わりを広げていく。
- 行政だけではダメ。学校等との関係機関で協力・連携を図って進める。
- ずっと言われ続けていることだけれど、『親プロ』だけの活動では限界がある。福祉部局(保健師)とつながりがなければ、問題を抱えている家庭の情報がわからない。
- 生涯学習課では届きにくい家庭の情報がわからない。時々福祉部局との会議はあるが、個々の情報は出されない。支援するには個々の情報が必要。

##### 《周知の仕方の工夫》

- デジタル化が進んでいるので、アプリ(東広島市のような)を開発したりすると良い。
- 支援が行きにくい家庭にも、子育て支援の活動を知ってもらうために、行政が制作する広報番組やHP、アプリ等を通じて積極的に情報提供していくことも必要。
- コミュニケーションツールは今の時代、デジタルベース、紙ベースと、様々であるから、それらを駆使して、まずは情報を届けることが大切だと思う。
- 家庭教育支援が届きにくい家庭とつながるためにも、諦めずに広報を続け、公民館などに来てもらうきっかけをつくる。(☆保護者どうしのつながりづくりが必要な段階になったら、「親プロ」の出番！)
- 紙媒体などで一律に声をかけても、参加しない人はずっと参加しない可能性もある。  
このため、実際に参加した人が知り合いや友達に声をかけて、広げていく必要がある。
- 事例発表の中にあつた、フェスティバルでPRするのはいいと思った。
- 子供がいなかったの、相談する場所があることすら知らなかった。色々な支援があることを知らない家庭もあるのでは…。人間は待っているときに、キョロキョロと貼り紙などを見るらしいので、『人が待つ場所』、お弁当屋さんとかにポスターを貼るなど工夫をしてはどうか。

##### 《その他》

- 家庭教育支援が届きにくい家庭が、どの程度の届きにくさなのかで対応が随分変わる。
- もっと全家庭に広がっていけば、支援が届いていくと思う。
- いろいろな工夫で保護者と子供が出向いていける場を紹介し、保護者とは子育て相談をしていけたら、少しでも家庭支援がより届いていくと思う。
- 縦の繋がりはできていても、横の繋がりができていないこともあるため、横の繋がりをしっかりと固めていく必要がある。
- 窓口をひとつにする。

- 些細なことからきっかけを作り、繋がりを持つ。
- 今までの商業施設での実施実績をふまえ、届きにくさを持つ人たちの不安が解消できるよう活動を企画していく。
- 「届きにくい家庭＝届いているけど参加しにくい」であるとも考え、参加しやすいと思える工夫をする必要があるという結論になりました。

(工夫の例)

- ① (本研修にもあったように) 講座について、オンラインでの視聴も可能にする
  - ・オンラインだと、講座の内容によっては好きな時に入退出できるため
  - ・オンラインだと、服装等の身なりを気にする必要がないため
- ② 対象にあわせて開催する日や曜日に考慮する
- オンライン講座を夜間開くのはどうか?→就業ママは平日は無理。
- 工夫によっては参加し易くできる。自由にいつでもオープン、ドアを開けているよと示す。

## 5. オンラインでの繋がりづくり

- オンラインの環境をみんなが持っているとは限らないが、コロナで集まらない状況なので、オンラインで繋がるのは効果的であると思う。
- 「Zoom」でやってみようという気持ちづくりが必要。参加してくれた人には一歩踏み出してくれてありがとうという気持ちをもって、接することが必要。そうすることで、参加者がその後、個人でもやってみようという気持ちにつながると思う。
- 失敗してもいいのでまずはやってみるということだと思う。ファシリとして、オンラインの事例を聞いてやってみようという気持ちになった
- オンラインでもつながれると思う。実際オンラインでつながった人たちとは、会ったことがないけれど、実際会ったことがあるような気になっている。
- オンラインで子供同伴の「親プロ」に障壁はないか(子供同伴だと場が止まるなど、そういったことはないか)→オンラインだからと意識しすぎず、現場でやる「親プロ」とあまり変えなくてよいと思う
- 母子保健推進員として普段から子育て家庭と顔が見える関係づくりを心掛けている。そういった中で、オンラインでもつながれるということを各家庭に情報提供していきたい。
- オンラインでの子育て相談など若い保護者は繋がりやすいのではないかと思った。
- 対面が苦手な人や、コロナ対策に不安のある人も、リモートであれば参加し易いのではないか。
- 一人で参加するリモートは不安があるが、ハイブリッド型であれば一人で参加する方法と数人で参加する方法を選択できる。
- 新型コロナウイルスが収束した後もリモートでの実施は今後も活用されていくと思う。
- オンラインだと画面ごしになるので、相手への伝え方・伝わり方が違ってくる。
- 集合型研修の場合、会場に出向くことで参加者は研修に集中できるが、オンラインだと家事をしながらなどの参加となり、集中して受講するのは難しいと思う。
- 「Zoom」での会議をするには、ネット環境の整備が必須となるので、ハードルが高い。
- オンラインで対応していくことに職員のスキルがついていないところもある。

## 6. その他

- 府中市では、天満屋の新しい支援センターのオープン(7月)に合わせてさらに飛躍できるよう活動をしていく予定。
- 今日はテレワークだったこともあり、通信環境が職場よりよく、スムーズに参加することができ

た。主催お疲れさまでした！生涯学習センターさんたちこそ、ステップアップがすごい↑

- 一部の参加者が発言できぬまま、交流タイムが終了しました。
- 意見交流の時間が短いため話し合いの柱までいきついていない感じになりました。
- 活動等自粛の判断について、各団体に委ねられているのが現状。政府等が一律に決めてくれる方が楽だと思う。
- 東広島市の報告を聞いて、密になるのではと心配になった。コロナ禍において、できない理由・やらなければならない理由の整理が必要だと思う。
- 集合型研修の場合、参加人数の制限をするなどの対策を講じる必要がある。